

20220714 第135回『運輸の日』

日時 2022年07月14日(木) 10:30～
場所 東神トラックステーション
行動者 阿部健次郎(川崎運送労働組合)
浅井 義昭(丸全昭和運輸労働組合)
小室 裕貴(日新労働組合)
池田 勇二(ヤマト運輸労働組合川崎支部)
菊池 良勉(SBS ロジコム労働組合)

本日は、川崎地区連絡協議会の順番です。ここ大和市：東神トラックステーションにて『第135回運輸の日』を実施、阿部議長を中心に5名にて取り組みました。昨日の雨も上がり、少し蒸し暑い中での行動になりました。まずは、恒例の大弾幕の設置作業ですが、これだけでひと汗かきます。



阿部議長は、「大変蒸し暑い中の行動になります。無理をせずに、休憩と水分補給をしながら調査をお願いします」と述べ、浅井事務局長より、諸注意がされスタート。

本日は、若干の空きスペースがありましたが、すぐに満車状態になりました。そんな中で、女性のドライバーの方にも伺った所、「一番困るのは、トイレ!」と第一声。「東神トラックステーションにも何度か仮眠したことがあるが、夜は暗くて怖い!」「女性だから?トラックをあおったり。追いかけて来る車もあり気持ち悪い思いもした。」と女性ならではの話をしてくれました。



女性の活躍をめざすのであれば、安心して働ける環境整備が第一!しかし、企業だけではどうにもならない問題であるが、放置すれば問題解決にはならない。企業を通じトラック協会へ『声』を出さなければいけない。当然、労働組合側からも『声』をあげて両面から足並みをそろえた取り組みが重要だ!

女性ドライバーの方にも伺った所、「一番困るのは、トイレ!」と第一声。「東神トラックステーションにも何度か仮眠したことがあるが、夜は暗くて怖い!」「女性だから?トラックをあおったり。追いかけて来る車もあり気持ち悪い思いもした。」と女性ならではの話をしてくれました。

【行動者の感想】



本日は曇りの中でしたが、いつもの通り構内に止(泊)まっているトラックはお決まりのエンジンをかけフルカーテンをしている車両が多くありました。

その中でも、何人かのドライバーから、質問に対して気さくに答えてもらえることが出来ました。

阿部健次郎(川崎運送労働組合)



天気が心配されましたが、なんとか曇り空で、逆に暑さが緩和されていました。

アンケートは勤務年数と入社のかっかけ、転職の理由でしたが、ハローワークでとの方がいて驚きました。

全体では紹介が多かったように思います。不満を聞けば、首都圏でのトラックの待機場所の少なさに対するものが多数聞かれました。

政策制度要求でトラック待機場所については改善が必要だと感じました。

浅井 義昭（丸全昭和運輸労働組合）



今回はじめて運輸の日のアンケート調査に参加させて頂きました。

実際アンケートを取ってみるとやはり年齢層は高い印象を受け、運輸産業が抱える問題点がそのまま反映されているようでした。

転職組が多い半面、大半がドライバー経験者のため新規で入ってきている印象はありません。転職の理由の多くは労働条件に起因するものが多く、産業全体の労務管理の厳しさを感じます。また、腰を痛めてしまい、作業が出来ないことが理由で別の車両に乗り換えるケースも多くあったため、作業を抱える以上はより若手が必要になってくる産業だと感じました。運輸産業の将来を考えるとやはり若手の参入は課題だと思いました。

小室 裕貴（日新労働組合）



何人かのドライバーさんに、お聞きしたところ快く対応していただきました。さらに、仕事上の悩みや働く環境についても応えていただきました。

トラックを止められるスペース、場所をもっと増やしてほしい。トラックステーションがもっと東京寄りがあると嬉しい。高速道路では大型車のわだちに4トンの車が引っ張られるので怖い。とのことでした。

7月の活動は厳しいです。体力的に...

池田 勇二（ヤマト運輸労働組合川崎支部）



初めて参加させて頂きました。

荷待ちなどの待機してる地方トラックが多く、話しを聞くと待機時間が長い印象を受けました。

長時間労働のまさしくモデルでした。2024問題は切実な問題だと実感もしました。

菊池 良勉（SBS ロジコム労働組合）